

## 気候危機問題に取り組む



自由の森学園高校での出前講座

### 目次

気候危機問題に取り組む	
高校での出前講座2022.9.14.....	2
気候危機講座 生徒の感想「頑張ってください」.....	3
世界気候アクション0923レポート.....	5
「平和のつどい2022 in牛久」感動の増田講演.....	6
気象と戦争—沖縄特攻と沖縄気象台員の死の彷徨—.....	7
JNEP情報.....	8
清水静さんを偲ぶ.....	8
活動日誌.....	9
リレーエッセイ.....	10

## 高校での出前講座 2022.9.14

公害・地球懇常任幹事 奥田さが子

埼玉県自由の森学園高校で2年生と3年生を対象に、「生きる・働く・学ぶ」特別講座の一つとして、「気候危機問題に取り組む」を入れていただき、Fridays For Future Tokyoの大学生お二人と一緒に出前講座に行ってきました。コラボレーションでの講座は初めての経験なので事前に3回、オンラインでの打ち合わせを行い、今回はFFFがメインスピーカー、私たちはサポーターという形で行いました。若い人達は、同世代の声への共感が大きいことからFFFへ働きかけたのですが、打てば響くように答えてくれて、いい講座ができたと思います。2度目の打ち合わせでは、ばっちりと言得力のあるパワーポイントを作ってくれて、いまさらながら、よく学んでいるうえデジタルに強い若者の力に感心しました。

今年の夏、日本でも酷暑や大型台風、ヨーロッパでの記録的高温、パキスタンの国土が3分の1も水没するほどの大洪水などなど、世界中で温暖化による被害が顕著に表れ始めています。この影響がどんどん進む中で、今の若い世代や子どもたちは生きていかなくはなりません。温室効果ガスをほとんど出さない開発途上国や貧困層がまず真っ先に被害者になります。地球のためにも私たち人間の社会のためにも、この矛盾をただすこと、その「気候正義」がいま問われています。

受講した生徒は14名。90分の話をととてもよく聞いてくれました。感想を書いてもらったので抜粋ですがいくつかご紹介します。

\*今日は地球にせまっているキケンについてよく学べたと思う。自分が何もしていないことに気付けた。自分も何かしようと思う。

\*気候変動、異常気象という言葉をよく耳にするけれど、具体的にどう変化していて、どう異常なのか、私たちに向けられた課題、目標は何か、ということを知りたくて、この授業を選択しました。地球の環境に興味はありますが、まだまだ私の地球への知識は浅く、知ることからのスタートだなと思います。世界が注目しないといけない、取り組まなければいけない問題だとは思いますが、まずは自分が始めないと、と思われられた感じがします。意外と簡単なことでも、地球という一つの生命体を救うことができるなら、未来のためにも今、頑張ろうと思います。原発や水俣病の話が印象的でした。

\*「“人権問題”である」という言葉が頭から離れません。本当にその通りだと思います。いつも犠牲になるのは、貧しく、途上国の人々なのに環境破壊に大きく影響を与えている先進国、裕福な私たちは何もできていない。その事実を受け入れ、向き合い、地球や人々が平等で幸せな暮らしができるよう、一つずつ、小さなことからでも始めたいと思いました。貴重な時間をありがとうございました。

\*「戦争ほどCO2を排出することはない」という言葉にすごく共感しました。このような活動は、人との出会いの中から始めるという人がいるんだなと思いました。

\*お話を聞いて気候変動に私たちがかわっていることを初めて知りました。私たちはたくさん使って、貧しい人々は全く使っていないのに、貧しい人々が被害を受けているのはとても不公平だなと思いました。

また、日本の自然エネルギーは、現在使っているエネルギーの2倍もあると聞いて、日本は何をしているんだろう、なんでそれができるのに始めようとしなないんだと、疑問に思ったりもしました。今日はこんな話を聞かせてくれ、今の状況がいかに深刻かを教えてくれてありがとうございました。

\*お話を聞いて思ったことは、FFFに入っている皆さんは行動力がすごいなあと思いました。私も気候について何となくだけだと大変だなあとは思いますが、声を上げる勇気がなかったり、ましてや団体に入ろうなんて絶対に思わないから、同年代くらいの人たちが活動してると聞いて驚いた。

たくさんの方のことを考えて活動されていてすごいと思いました。今まで、デモとかしている人たちは怖いし、絶対関わりたくないと思ってたけど、楽しそうで、キラキラしていてなんか感動しました・・・！がんばってください。

若い感性の響きあい未来への希望を感じます。これからも、できるだけ新しい学びの場を開拓し、若い人たちが様々な場で活躍できるように応援していきたいと思います。もちろん私たち自身も、「公害」に泣く人々をなくし、地球と社会の環境を少しでもまともなものにしていくために、これからもがんばっていかなくてはなりません。

## 気候危機講座 生徒の感想「頑張ってください」

Fridays For Future Tokyo  
一橋大学3年 田原(たばら)美優

今年6月下旬から7月初めにかけて、異常な暑さが日本を襲いました。皆さんはこのとき、何を感じ、どのように過ごしていましたか？私は、この暑さのなか誰がどのように困るのか、色々な立場になって考えていました。

例えば、外を歩いていて見かける屋外労働者。長袖を来て建設現場で働く方、簡易的なパラソルしかない野外駐輪場で働くご高齢の方、ゴミ収集作業をしている方、自動販売機で飲み物の補充をしている方、農家の方…。これらの方々には屋外でたくさん活動をしていながら、もちろんエアコンを使うことはできません。もし一人での作業中に倒れてしまったら、救護を早急に受けることができません。

小さなお子さんとその保護者も困っていたと思います。外で遊びたくても危険だから遊べない子ども、保育園に行っている間に子どもがきちんと熱中症対策をできているか不安な保護者がいたと思います。

体育の授業や部活動をしている学生たちも危険にさらされていました。経済的な余裕がない方たちは、そもそもエアコンがない、あっても我慢しなくてはならないなど、暑さに対して非常に脆弱でした。人間以外の動植物も暑さによるダメージを受けました。

このように考えてみると、気候危機がいかに我々を苦しめるものか、そしてその影響がとて身近なところにまで及ぶことがわかります。もう一つ、私たちが受け入れなくてはならない事実があります。この6月下旬から7月初めの暑さは、「人為起源の地球温暖化がなければ1200年に1度しか起り得なかった非常に稀な現象」だったと、文部科学省らが発表しました。(注)

地球温暖化が、先に述べたような暑さによる様々な影響や、熱中症による死者を生み出す大きな要因になっていたのです。

気候危機は既に牙をむいていて、一人残らず私たちの命を危険にさらしているのです。しかし、人々の危機感や行動はその危機的状況に見合っていません。先日、自由の森学園高校で気候危機についてのプレゼンテーションを行いました。生徒たちはとても真剣に話を聞き、メモを取っている方もいました。プレゼンテーションについての生徒たちの感想文を見ると、気候危機の現状に気づき、何かしたいという趣旨の感想も見られました。

にもかかわらず、私は今、悔しい気持ちでいっぱいです。一時間半のプレゼンテーションなので当たり前かもしれませんが、生徒たちの感想文からは、私が今抱えているほどの危機感を感じられませんでした。FFF Tokyoの活動を「すごい」と純粋に褒めてくれるものの、「だから自分はこれをする」という宣言はなく、「頑張ってください。」で締められた感想もありました。もちろん、私は彼らを責めているわけではありません。むしろ、私自身の能力不足と、日本人の気候危機に対する純粋なリアクションを痛感しました。

私は、人々が危機感を高め、行動を起こすために二つのことが必要だと思います。一つ目は想像することです。冒頭で私が行ったように、猛暑や大雨のとき、自分は、家族は、友達は、街で見かけるあの人は、顔の見えない世界の誰かは、どう困るのか、一つ一つ丁寧に想像してみると、気候危機が自分事化されます。



危機的状況を十分に認識することができません。当分は経済力で気候危機に耐えることのできる人も、既に影響を受けている人がいることに気づき、いてもたってもいられなくなると思います。

二つ目は、責任を自覚することです。気候の危機的状況を作り出しているものは何か。それは、特に日本のような先進国が大量に排出してきた温室効果ガスです。この私も、紛れもない気候危機の加害者です。それと同時に、私には社会を変える力があります。今もこうして、奥田さんとの出会いから、JNEP ニュースに文章を掲載させていただき、これをお読みの皆さんという力強い仲間に出会うことができました。気候危機の原因を生み出していると同時に、現状を変える能力を持ち合わせている多くの日本人には、気候危機の解決に取り組む責任があると思います。

最後になりますが、皆さんには、守りたいものはありますか。私にはあります。弟や、まだ小さい従妹たちの未来を守りたいです。人々の命を守りたいです。小さい頃から今でも遊んでいる大好きな球磨川を、命を奪う凶器になることから守りたいです。この私が、誰かの命を奪う加害者になることから守りたいです。

今後も、気候危機をはじめとするあらゆる問題とともに立ち向かいましょう。

注) 文部科学省・気象庁気象研究所, 2022, 「令和4年6月下旬から7月初めの記録的な高温に地球温暖化が与えた影響に関する研究に取り組んでいます。ーイベント・アトリビューションによる速報」, (2022年10月2日取得, [https://www.mext.go.jp/content/20220906-mxt\\_kankyou-000024830\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220906-mxt_kankyou-000024830_1.pdf)).

田原美優さんと後藤れんさんは奥田、橋本とともに今回の出前講座で講師を務めました。

# 世界気候アクション0923レポート

Fridays For Future Tokyo  
青山学院大学二年 後藤れん

私は大学での勉学と並行して、Fridays For Future (以下FFF)のオーガナイザーとして気候変動とその対策に向き合っています。FFFとは、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんのストライキから世界に広がった若者のムーブメントです。気候危機の現状を前にして、今を生きる世代としての責任を果たしたいと感じ、私も4月から活動に参加しています。

今年の9月23日に開催された「世界気候アクション0923 (英語名 Global Climate Strike)」をご存知でしょうか。世界気候アクションとは、FFFが主体となって世界同日に気候変動に対して声をあげるアクションのことです。日本では「#気候危機はいのちの問題」をテーマに掲げて全国80箇所以上でアクションを開催し、私もFFFの仲間やNGOの方々と共に運営に携わりました。その世界気候アクションに伴い、東京では約3年ぶりとなる気候マーチを開催しました。当日はスタッフを含め400人ももの参加者が集まり、表参道～原宿～渋谷方面を周回するコースを歩きました。渋谷の真ん中で、道ゆく大勢の人の関心を集めることができたと思います。

マーチの隊列には「ゆっくり歩くゾーン」「撮影禁止ゾーン」を設置し、指文字などで障がいのある方をサポートできるスタッフを配置することで、幅広い方々が参加できるアクションを目指しました。また、オーガナイザーによる街頭アンケート、ロゴをあしらったスタンプの作成などの企画を行い、参加者の一体感を高め周囲の人の注目を引く工夫も施しました。

マーチにはカラフルで個性豊かなプラカードが集まり、コール（掛け声）やスピーチで楽しい雰囲気さをさらに盛り上げました。

加えて、当日20時から、各地で行われたアクションを紹介するオンライン報告会も開催されました。読書会、スタンディング、マーチ、ゴミ拾いといった、各地のオーガナイザーが独自の工夫を凝らしたアクションを一度に見ることができ、非常に楽しい時間でした。気象の影響で一部のアクションには変更や中止もありましたが、約70人の参加者と共に今回の世界気候アクションを振り返ることで、当日の熱気や思いを共有することができました。今回の一連のアクションを通して、気候危機に対する多くの声を一同に集めることができ本当に良かったと感じています。今後もこの経験を活かし、よりたくさんの人を巻き込んだムーブメントを起こしていきたいと思います。



世界気候アクション0923での行動



世界気候アクション0923での行動  
公害・地球懇もこの運動に賛同し参加しました。

## 「平和のつどい2022 in牛久」 感動の増田講演

公害・地球懇常任幹事 橋本良仁

ストップ温暖化！牛久の会主催で、「平和のつどい2022 in 牛久～伝えよう平和への想い～」が開催された。牛久の会は、6月に亡くなられた清水瀬さんが終の住処とした茨城県牛久市で地元の皆さんと立ち上げた団体である。昨年11月には、牛久の会として市と教育委員会に働きかけ、中高校生の参加もあり、「牛久のつどい」を成功させた。

今回のつどいの主役は気象研究者の増田善信さん、清水さんの強い要請に応えてつどいが実現した。主催者挨拶のあと、ダンサーの鈴木一琥さんの力強いダンスパフォーマンスが披露された。

続いて橋本から、公害・地球懇誕生の歴史的背景とその意義、公害被害者の救済と公害の根絶を求めながら、地球環境を守る30年余の活動について映像を交えながら報告した。つどいは、実行委員会の予想を上回る(?) 70人を越す参加者があり、私たちの報告に熱心に耳を傾けられた。参加者の感想を一部紹介する。

このつどいのメイン講演のテーマは、「気象と戦争―沖縄特攻と沖縄気象台員の死の彷徨―」、増田さんは99歳のご高齢にもかかわらず、戦争遂行という異常な状況下でのご自身の生々しい体験とその教訓を1時間半にわたり迫力をもって話され、その後、参加者の質疑にも丁寧に答えられた。

○鈴木さんのダンスパフォーマンス、心に迫るものがありました。橋本さんの「地球の温暖化」「公害問題」の活動を通して、次世代への責任を改めて思いました。

増田さんの講演は99歳とは思えない力強いお声と気象士官として実際に戦争に関係された体験は迫りに圧倒されました。確かな記憶力も素晴らしく思います（70代）

○増田先生のお話しに感動した!! 戦争になれば天気予報が真っ先に止められるということは知ってはいたが、沖縄では天気予報の仕事、気象情報収集の仕事に専念して多くの犠牲者を出したことは知りませんでした。天気予報は平和のシンボル、よくわかりました。「野党共闘を強めて政治を変えることが大切」という先生の最後のメッセージにこれからの方向を見た思いです。

## 気象と戦争 — 沖縄特攻と沖縄気象台員の死の彷徨 —

気象研究者 増田善信



2022年9月23日、茨城県牛久市の「平和のつどい2022 in 牛久」に参加し、「気象と戦争」と題して約1時間半講演をした。

太平洋戦争の開戦の日に、モールスが暗号化され、天気予報をはじめ気象資料が総て気象報道管制にされ、顔見知りの漁夫にさえ、非常に危険な日本海側の「欺瞞天気」を教えられなかった苦衷を述べた。海軍予備学生を経て海軍少尉に任官し、島根県出雲市の大社基地で気象隊長。

敗戦間近の8月6、7、8日、沖縄に向かう特攻隊員に天気予報を教える。「みすみす死ぬことがわかっていた」が声に出せず。

台風や地震で大きな被害が出ても「戦意に響く」と国民に知らせず、疎開の児童が死んでも「航空機の減産が敵に知れる」と親にも知らせられなかった。特に悲惨なのが沖縄で、沖縄気象台の職員74名中70名が殉職した。特攻のための気象観測をしながらの「死の彷徨」を語って講演を終えた。

天気予報が復活したのは、敗戦後の8月21日。国民は初めて戦争が「終わった」と実感した。「今に神風が吹く」など不合理だと思っても言えない状況、そんな「天気予報が消える日」をつくってはならない。まさに「天気予報は平和のシンボル」である。



## JNEP情報(2022年10月)

### 原発運転期間上限撤廃、推進官庁に委ねる

「原子炉等規制法」では、原子力発電所の運転期間は40年とし、1回に限り20年延長できると規定している。これに関し岸田首相は8月24日のGX会議（グリーントランスフォーメーション、脱炭素を名目にした会議）で、省エネや再エネのことは洋上風力以外にほとんどふれず、一方で原子力については再稼働とともに安全性の確保を前提とした運転期間の延長など既設原発の最大限の活用という発言をした。次世代革新炉の開発・建設についても言及した。

経済産業省はこれを総理指示とし、原子力の最大限の活用として、総合資源エネルギー調査会の原子力小委員会で、既設原発の運転期間延長、延長審査の円滑化、60年の法定上限の見直しなどの議論を始めた。

10月5日の原子力規制委員会で、経済産業省資源エネルギー庁が原発利用を進める政策の観点から、既設原発の運転期間延長、60年運転上限見直しなどを検討する方針を説明し、また必要に応じて法的な措置を講じる考えを表明した。つまり原子炉等規制法の運転期間の規定改定ということである。

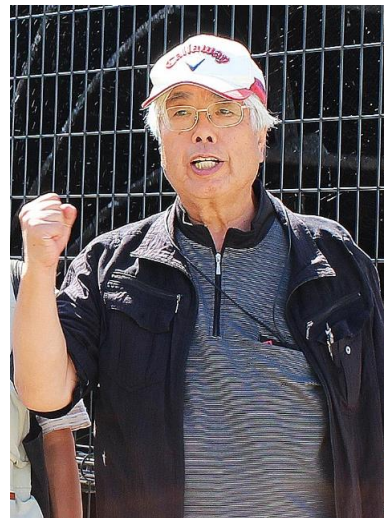
原子力規制委員会は、これについて運転期間延長を決める責任と権限を経済産業省側に移すことを認めたが、これは原発に関して、安全のために監視し規制する側でなく、利用を推進する側にゆだねることを意味する。

このことを報じた東京新聞は「脱炭素を名目に「原則40年、最長60年」とする原発の運転期間の制限が撤廃に向けて走り出した。リスクの高い老朽原発がなし崩し的に動き続ける事態につながりかねない。2011年3月の東京電力福島第一原発事故の反省が忘れられようとしている。」と厳しく指摘している。

## 清水瀨(きよし)さんを偲ぶ

2022年10月12日(水)14時より16時 林野会館5階大ホールにて、去る6月4日に亡くなられた清水瀨さんを偲ぶ会が行われました。生前トロさんの愛称で親しまれ、地球環境を守り、公害をなくすことに全力を尽くされた清水さんを惜しむ人たちがその大きな喪失を悲しみ、偲んだ一日でした。享年83才、まだまだやり残したことがいっぱいあるという思いだったことでしょうか最後の力を振り絞って作った「福島現地調査」のDVDと報告書が私たちに残された遺産になりました。

公害・地球懇、公害総行動実行委員会、ノーモア・ミナマタ、東京公害患者会をはじめとしてトロさんが係わった多くの団体から90余名が集まったことはいかにトロさんが活動に尽くし、みんなに愛されていたかを示すものでした。





## 活動日誌

## 社会情勢や事件など

## 8月

- 22日 岸田首相 原発7基再稼働表明  
29日 & 30日  
文科省・原陪審委員・福島現地調査と  
意見聴取

## 9月

- 5日 生業訴訟第2陣弁論(福島地裁)  
26日 文科省・原陪審  
中間指針見直しへの中間報告発表  
27日 安倍国葬  
国葬反対集会

## 行動参加など

## 9月

- 5日 環境公害セミナー打合せ  
7日 子ども甲状腺裁判第2回  
14日 自由の森学園高校出前講座  
19日 「安倍元首相国葬反対！  
改憲発議と大軍拡やめろ！  
さようなら戦争 さようなら原発  
9・19大集会」  
23日 世界気候アクション  
24日 静岡自治研⇒台風15号で中止  
28日 原発飯館裁判、原発千葉裁判、  
原発津島裁判

## 10月

- 1日 & 2日 自治研究集会  
3日 大気トヨタ前行動  
12日 清水瀬さんを偲ぶ会

## 公害総行動関連

- 9月14日 47回実行委員会  
10月20日 48回実行委員会事務局会議

## 今後の予定

## 10月

- 19日(水)16:00～  
大間原発裁判報告集会(参議院会館)  
28日(金)14時半～16時  
岸田首相による原子力政策の転換の狙いと  
施策について(エネルギー研究会)  
[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_j11J5-0QRT-LW9FTaq4mqQ](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_j11J5-0QRT-LW9FTaq4mqQ)

## 11月

- 2日(水)14:00～ 大気責任裁定第1回  
5日(土)13:30～ 千葉訴訟集会  
(千葉弁護士会)  
6日(日)～18日(金)COP27開催(エジプト)  
9日(水)14～16時  
「環境と公害」セミナー  
脱炭素実現に向けて  
(環境会議主催)

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_lwG7ifznTnueiNMvsDlhlQ](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_lwG7ifznTnueiNMvsDlhlQ)

- 29日(火) いわき訴訟控訴審結審  
(仙台高裁)

## 12月

- 15日(木)大学出前講座  
18日 & 19日(土日)  
48回総行動実行委員会合宿  
(福島コラッセ)  
22日(木)大学出前講座  
22日(木)13:30～ ノーモアミナマタ東京裁判  
(東京地裁)

発行 : 公害・地球環境問題懇談会  
(公害・地球懇/JNEP)  
連絡先 : 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-3  
サニーシティ新宿御苑10F  
TEL 03-3352-3663  
  
FAX 03-3352-9476  
郵便振替 : 00140-1-80892  
URL : <http://www.jnep.jp/>

JNEPリレーエッセイ

## 第6回 : 「秋は夜」



高尾・浅川の自然を守る会 会長 浅見和彦

春は曙…夏は夜…秋は夕暮れ…冬はつとめて…

よく知られている「枕草子」の書き出しである。普通、春といえば花、すなわち桜をあげるところだが、彼女は普通の感覚を嫌う。通念に抗してあえて「「曙」と言い切っているところが、いかにも清少納言らしい。「夏は夜」「秋は夕暮れ」と少し落ち着いて、季節、季節のある時間帯を列挙する。春夏秋までは好ましい時間をあげることにはさほど困難ではないが、やはり冬は困る。しかし、ここでも清少納言は人々の意表を突く。彼女の推奨する冬の「つとめて」は早朝のこと。冷気に包まれ一時たりとも長く寝床にいたいあの厳寒の朝が彼女はお好みだったのだ。清少納言の感性は極めて独自、独特といってよいだろう。

そんな彼女にひそかなライバル意識を持っていたのが兼好である。兼好はその著「徒然草」の中で、秋の中で一番として挙げたのが「夜」である。

「夜に入りて ものの映えなしといふ人 いと口惜し（夜になると暗くてものの良さ、興きがなくなって残念だという人は情けない）」（191段）。すべて「夜のみこそめでたけれ（夜こそが素晴らしいのだ）」と夜をひたすら賞揚する。

私は、かねがね日本の美の要素として「静かさ」「暗さ」「貧しさ」の3つをあげているのだが、最近はいつでもどこでもライトアップ、街の角々には自販機、誰も乗っていないのに動き続けるエスカレーター。電力の無用な消費はとどまるところを知らない。電力逼迫するゆえ原発再稼働、再延長、その挙句新設するなんてとんでもないことだ。暗い夜を味わおう。兼好は「ひとり燈火の下に文を広げて」書を読むことを無上の幸せと考えていた（13段）。静かな暗い夜。秋の夜は最高だ。

八王子の自然保護団体「高尾・浅川の自然を守る会」の会報より

